

発刊の言葉

松本歯科大学学会長 北村 勝衛

先般、松本歯科大学学会が設立され、その機関誌である『松本歯学』が発刊されることになったことは、まことに喜ばしいことである。わが松本歯科大学は開学して満4年になろうとしている。その前半2ケ年間に行われた学術講演会・学内研究発表会の記録ならびに研究業績目録等は、すでに発刊された『松本歯科大学研究会誌、昭和47・48年度』に掲載されている。またその時点において学会設立に積極的に準備を進めていることも、その巻頭に述べてある。その後1年半を経て、昭和50年11月8日に松本歯科大学学会の発足が実現したのである。

本学の使命は、申すまでもなく、建学の理念を遵奉し、教育・研究・診療を遂行することにある。今日までは、教育と診療に重点がおかれ、研究については、ともすれば付随的になりがちであったと思う。しかし、ここに学会が設立され、研究業績の発表の場が開かれたわけである。もちろん発表の場は学外にも広く求め得るが、学内に『松本歯学』ができたことは、非常に好都合であることは論を俟たない。

『松本歯科大学研究会誌』がいずれ学会誌へと脱皮移行することは十分に予期されていたので、その研究会誌にはあえて第1号とはせずに、昭和47・48年度と銘打ったのである。従って今回発刊になる学会誌『松本歯学』は本当の意味の創刊号であり、これから、第2巻、第3巻と継続して発刊されるものである。本学会会員諸彦の絶大なる協力によって、本誌がますます発展することを期待したい。

当分年2回の発刊であるが、本学学会が活潑な発展をするのと相俟って、何れ年4回に、さらには毎月発刊に漕ぎつけたいものである。